

2014年度

# 株 主 通 信

2014年1月1日～2014年12月31日

**BUSINESS REPORT 2014**

すべての革新は患者さんのために

## 中外製薬株式会社

## ごあいさつ



左：永山 治会長 右：小坂 達朗社長

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに2014年度の事業の概況をご報告申し上げます。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2015年3月

代表取締役会長  
最高経営責任者

永山 治

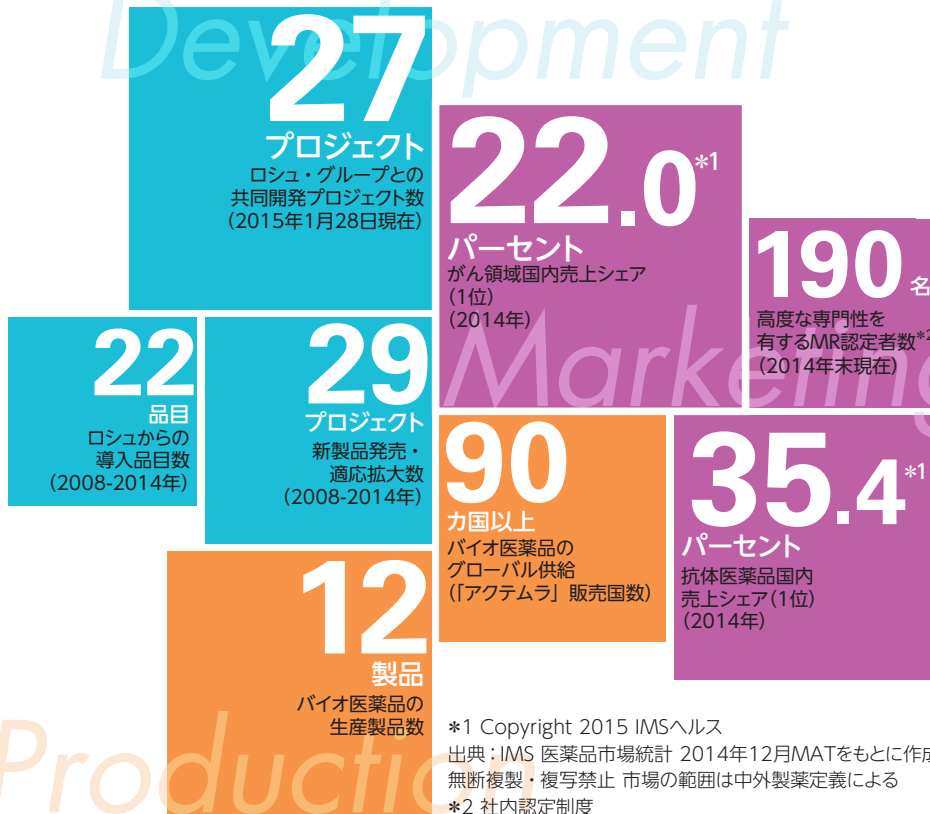
代表取締役社長  
最高執行責任者

小坂 達朗

## 目 次

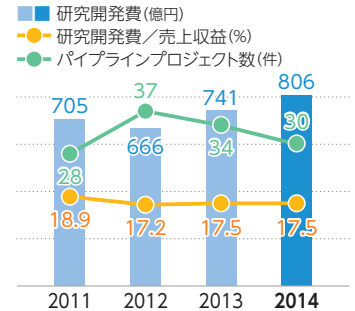
ごあいさつ.....	1	くずりのはなし.....	9
数字で見る中外製薬 2014年度 .....	2	株主インフォメーション .....	10
マネジメントメッセージ.....	3	会社の概況／株式の概況 .....	裏表紙
株主様アンケート 集計結果のご報告 .....	7		

# 数字で見る中外製薬 2014年度

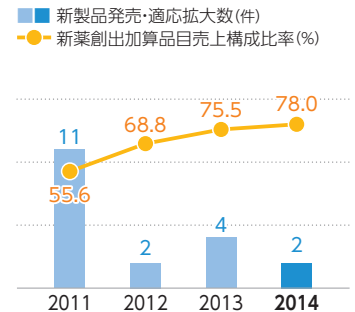


## 研究開発ハイライト

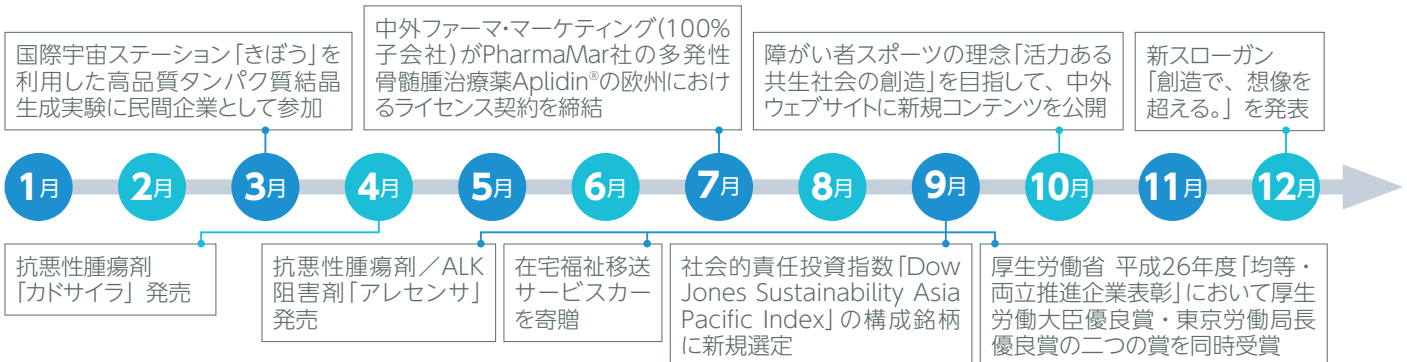
### 研究開発費／研究開発費比率／パイプラインプロジェクト数



### 新製品発売・適応拡大数／新薬創出加算品目売上構成比率



## 2014年度トピックス



## 革新的な新薬による 価値創造を目指して

代表取締役会長 最高経営責任者

永 山 治



### ■ 新製品、主力品ともに販売が好調に推移し、 想定を上回る成果。

2014年度業績は、国内・海外の製商品売上高とロイヤルティ<sup>\*1</sup>及びその他の営業収入がいずれも増加し、全般的に好調に推移しました。連結損益(Core実績<sup>\*2</sup>、以下同)は、売上収益4,611億円(前年同期比8.8%増)、営業利益773億円(同3.3%減)、当期利益530億円(同0.8%増)と、それぞれ期初の想定を上回りました。

製商品売上高を領域別に見ると、国内製商品(「タミフル」を除く)の売上高は、がん領域と骨・関節領域における新製品や主力品の伸長により、薬価改定<sup>\*3</sup>の影響を吸収し、3,495億円(同6.2%増)となりました。がん領域では、2014年9月発売の「アレセンサ」、同年4月発売の「カドサイラ」、2013年9月発売の「パージェタ」による新製品の寄与に加え、「アバスチン」「タルセバ」等の主力品も引き続き堅調を維持しました。骨・関節領域では、主力品の「エディ

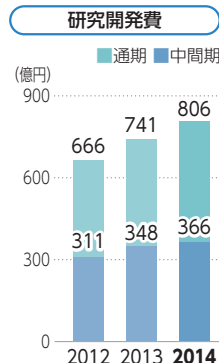
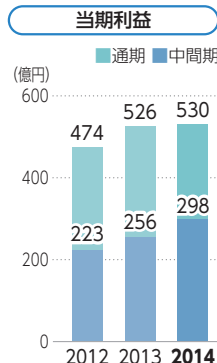
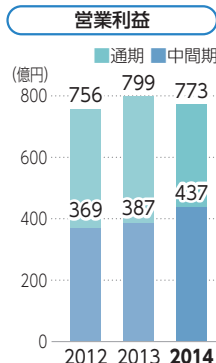
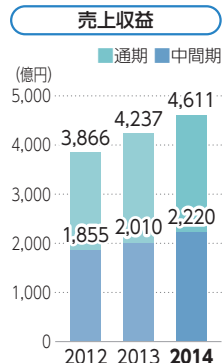
### Core実績連結財務ハイライト (2014年1月1日～2014年12月31日)

**売上収益 4,611億円**  
(前年同期比 8.8%増) ▲

**営業利益 773億円**  
(前年同期比 3.3%減) ▼

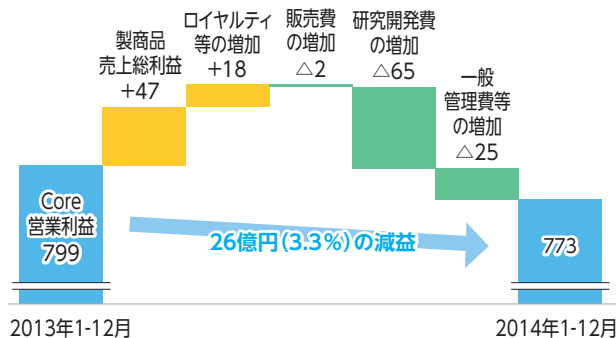
**当期利益 530億円**  
(前年同期比 0.8%増) ▲

**研究開発費 806億円**  
(前年同期比 8.8%増) ▲



## ● Core営業利益の増減内訳

(億円)



ロール」による牽引とともに、2013年5月に皮下注製剤<sup>※4</sup>を発売した「アクテムラ」、同年8月発売の「ボンビバ」が貢献しました。一方、腎領域は「エボジン」が薬価改定の影響を受けたことを主因とし、減収となりました。移植・免疫・感染症領域（「タミフル」を除く）は、他社新製品の参入による市場活性化により大きく伸長した「ペガシス」「コペガス」を中心に、売上を伸ばしました。なお、「タミフル」の売上高は130億円（同18.2%増）となっています。

海外製商品の売上高は、円安効果に加え、欧米で皮下注製剤を発売した「アクテムラ」のロシヤ向け輸出が伸長し、743億円（同21.6%増）と大幅に増加しました。

利益面では、円安に伴う原価率の上昇、研究開発費や一般管理費等の増加等により、営業利益は微減となったものの、当期利益はその他の金融収入（支出）の改善と税負担率の低下を受け、増益となりました。

## ■ 2年目を迎えた「ACCEL 15」は、4つの重要変革テーマを着実に推進。

当社はトップ製薬企業像の実現に向けて、3か年中期経営計画「ACCEL 15」を推進中です。2年目となった当期

## ACCEL 15の概要と進捗

### 重要変革テーマ

1. 営業生産性の向上
2. グローバル開発の加速
3. 革新的プロジェクトの連続創出
4. 経営基盤の更なる強化

### 定量ガイダンス

- Core EPS CAGR<sup>\*1</sup> (2012-15年) 1桁台半ば～後半(%)<sup>\*2</sup>
- Core EPS 配当性向 平均50%を目標

\*1 CAGR：年平均成長率

\*2 2012年の平均為替レートでの一定ベース

### ● 「ACCEL 15」2014年度の成果

- 「アレセンサ」「カドサイラ」の新発売と早期浸透
- エリア戦略推進体制の強化とeプロモーションの活用
- シンガポールCPRを梃子とする研究の順調な進展
- 前臨床プロジェクトの充実と、7つの新規プロジェクト着手
- 「アレセンサ」の第Ⅲ相国際共同治験開始
- 3つの自社創製抗体プロジェクトが順調に進行
- ロシヤへの導出契約を一部変更し、シナジー強化

### ☑ 用語解説

- ※1 ロイヤルティ  
特許権、商標権など、知的財産権の実施許諾に対する対価。
- ※2 Core実績  
当事業の核（コア）である医薬品事業から発生する経常的な収益性を管理するための指標。IFRS（国際会計基準）実績から、当社が非経常的と捉える事象に係る損益等を除いたもの。
- ※3 薬価改定  
医薬品の価格が適正な値段となるように、厚生労働省により2年に1回行われる価格調整。
- ※4 皮下注製剤  
少量の薬液を皮下組織に注射する剤形。点滴よりも簡便な投与法。

# マネジメントメッセージ

は、重要変革テーマに掲げる「営業生産性の向上」「グローバル開発の加速」「革新的プロジェクトの連続創出」「経営基盤の更なる強化」の各取り組みにおいて、着実な成果を上げることができました。

「営業生産性の向上」では、新薬の早期浸透を目指す中で「カドサイラ」の売上が期初の想定を大きく上回り、「アレセンサ」も順調な初年度実績を示しました。営業活動においては、エリア戦略の推進体制強化や、eプロモーション<sup>\*5</sup>の積極活用も進んでいます。

「グローバル開発の加速」では、「アレセンサ」が第Ⅲ相国際共同治験を開始したほか、3つの自社創製抗体プロジェクトが進行中です。2014年8月には、自社品のロシュへの導出契約を一部変更し、共同開発の意思決定を早期に行うことで、ロシュとのパートナーシップによるシナジーを最大限に活用できるスキームとしました。

「革新的プロジェクトの連続創出」では、シンガポールの研究子会社Chugai Pharmabody Research Pte. Ltd. (CPR)を梃子とする研究が順調に進展し、開発候補の抗体<sup>\*6</sup>が複数出てきています。また当期は、前臨床プロジェクトを充実させるとともに、7つの新規プロジェクトに着手しました。

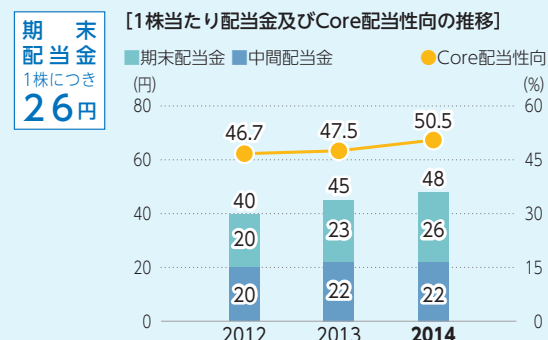
そして「経営基盤の強化」では、CPRの事業拡張を決定し、2012年から2021年までに約400億円の投資を実施する計画を打ち出しました。国内においても、浮間工場と宇都宮工場において、バイオ治験薬やバイオ原薬の生産設備を増強しています。

## ■ トップ製薬企業への想いを込めた新スローガン「創造で、想像を超える。」

「ACCEL 15」を締め括る2015年度は、高い水準での計画達成を目指し、4つの重要変革テーマに基づく取り組

## ■ 2014年12月期期末配当について

戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案したうえで、Core EPS対比平均して50%の配当性向を目標に、株主の皆様へ安定的な配当を行うことを目標といたします。2015年3月26日開催の株主総会において、期末配当の実施につき、次のとおり決議いたしました。



みを一層加速させていきます。

業績面では、引き続き主力品及び新製品による国内製商品の成長が期待できる状況です。ロシュ向けの輸出は、「アクテムラ」の海外成長とともに順調に伸び、ロシュからのロイヤルティ収入や欧州でのコプロモーション<sup>\*7</sup>に伴うプロフィットシェアも増加する見通しです。以上を前提に、2015年度の連結損益は増収増益を予想しています。

2015年度の配当は、1株当たり年間52円(4円増配)、うち中間配当金26円を予定しています。

なお当社は、2014年12月1日付で新スローガン「創造で、想像を超える。」を策定し、これに基づく企業ブランディング活動を開始しました。本スローガンには、これまでの常識や枠組みにとらわれず、世の中の人々が待ち望



## 2015年12月期の予想 (Core ベース)

科 目	2015年1-12月 (億円)
売上収益	4,865
製商品売上高	4,608
ロイヤルティ及びその他の営業収入	256
売上原価	△2,302
売上総利益	2,563
経費計	△1,713
営業利益	850
EPS(=1株当たり当期利益) (円)	104.42

### 配当予想

中 間	期 末
26円	26円

むもの、そして、その期待を超えていくものを継続的に生み出していくことを通じてトップ製薬企業を目指すという想いが込められています。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業への変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ☑ 用語解説

- ※5 eプロモーション  
医薬品業界においては、インターネットを活用した医薬品の情報提供などによる広報活動を指す。
- ※6 抗体  
特定の異物にある抗原(目印)に特異的に結合し、その異物を生体内から除去する分子。
- ※7 コプロモーション  
複数の製薬企業が共同で医薬品の販売促進活動を行うこと。

## 抗悪性腫瘍剤／ ALK阻害剤「アレセンサ®」発売

2014年9月5日、当社は「ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」を効能・効果として「アレセンサ®カプセル20mg、同40mg」(以下、「アレセンサ」)を世界に先駆けて国内で発売しました。

「アレセンサ」は、当社が創製した分子標的治療を目的とした経口のALK阻害剤であり、当社及びロシュが推進する個別化医療(PHC: Personalized Healthcare)に合致した薬剤のひとつです。個別化医療では、バイオマーカーや診断ツールを用いて治療の効果が期待できる患者さんを治療開始前に判別し、適切な薬剤を選択します。したがって、有効性や安全性、医療経済性の面で有益と考えられています。

「アレセンサ」の治療対象となるのは、非小細胞肺がんのうち、ALK融合遺伝子が陽性である2～5%の患者さんです。この融合遺伝子が発現している細胞は恒常的にALKのキナーゼ活性が上昇しており細胞増殖が制御されず、細胞ががん化していると考えられています。「アレセンサ」は、このキナーゼ活性を選択的に阻害することにより抗腫瘍効果を発揮します。

なお、欧米を始めとする海外での権利は2012年にロシュに導出し、臨床試験が進行中です。

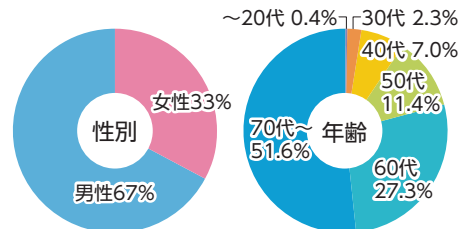


# 株主様アンケート 集計結果のご報告

2014年度中間期 株主通信に同封させていただいたアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

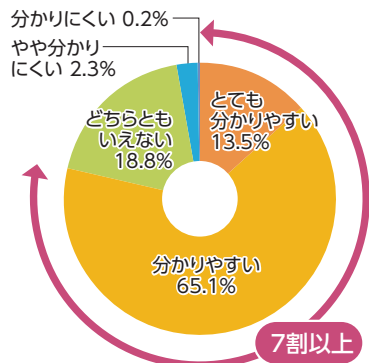
いただきましたご意見の一部をご紹介します。皆様からの貴重なご意見を活かし、IR活動の更なる充実に努めてまいります。

- ▶ 実施期間 … 2014年8月29日～9月30日
- ▶ 返 信 数 … 2,438通

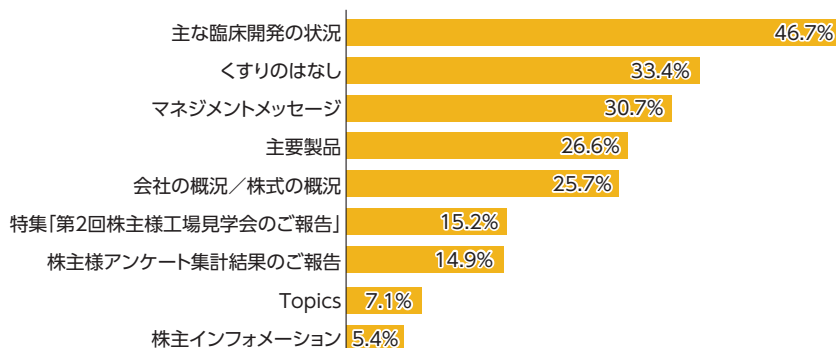


## 株主通信について

### 株主通信の評価



### 株主通信で興味を持った記事(複数回答)



### いただいたご意見・ご感想



#### ご意見

中期経営計画や成長戦略について掲載して欲しい。

貴重なご意見ありがとうございます。今回P3～6に中期経営計画「ACCEL15」の概要と今年度の成果を掲載しましたので、是非ご覧ください。



#### ご意見

新薬開発の取り組みや中外製薬のシェアについて知りたい。

貴重なご意見ありがとうございます。今回P2に研究開発ハイライトや当社のシェアを掲載しましたので、是非ご覧ください。







## 株主の皆様の 疑問にお答えします！

- ・アンケートにて株主の皆様から
- ・多く寄せられた疑問・質問に
- ・お答えします。

## ロシュとの関係は？

2002年10月、中外製薬は旧日本ロシュ株式会社と合併。ロシュは当社の発行済み株式数の50.1%を取得。この時から当社はロシュ・グループの一員となりました。

この提携の目的と意味は、製品ラインアップと開発パイプラインの拡大、製薬会社の成長に欠くことのできない研究開発基盤の強化が図れること、そして当社の優れた医薬品を世界市場に提供し、当社がグローバル展開を進めるための有力な足がかり

ができることです。ロシュとの戦略的提携により、両社の強みを相互に活用することであらゆる面で基盤の強化が図られ、自社創製品、ロシュからの導入品、新製品上市・適応拡大数、いずれも大きな成果を残すほか、国内のがん領域では、トップシェアを確保しています。

ロシュは現在、当社の発行済み株式数の59.8%を保有していますが、当社とロシュは当社普通株式の東京証券取引所市場第一部における上場の維持に協力することに合意しています。

今後とも、当社は上場企業として自主性・独立性を維持した経営を行っていきます。

## ●第3回株主様工場見学会のご案内

中外製薬の事業内容についてご理解をより深めていただくために、株主様工場見学会を開催いたします。

詳細は同封した「株主様工場見学会」開催のご案内をご覧ください。

### 見学会の概要

開催日：2015年5月28日(木)

見学場所：中外製薬工業株式会社 宇都宮工場

応募締切：2015年4月13日(月)必着

\*誠に勝手ながら「抽選」とさせていただきます。厳正な抽選の上、4月下旬に当選または落選の通知を発送いたします。



前回の見学会の様子



1万ℓのタンク



# くすりのはなし 8



日常生活の中でお役に立つ“くすりのはなし”。今回は、医療用医薬品と一般用医薬品についてのおはなしです。

詳しくはホームページをご覧ください

中外製薬 からだとくすりのはなし

検索

## 医療用医薬品と一般用医薬品

### 医療用医薬品

医療用医薬品は病院や診療所などで、医師が診断した上で発行する処方せんに基づいて、薬剤師が調剤して渡される薬です。処方薬とも言われます。

処方薬（医療用医薬品）は医療従事者の指示に基づいて使われますので、効果の高いものが多い反面、副作用にも注意が必要です。

しかし、医師は診断した上で処方を出し、それぞれの患者さんの症状や体質に合った的確な薬が選ばれていますので、医師や薬剤師の指示を守って使えば大きな心配はいりません。



### 一般用医薬品

薬局や薬店で、自分で選ぶことができ、だれでも買うことができる薬は市販薬、大衆薬、OTC医薬品などといわれ、正式には一般用医薬品と呼ばれています。OTCとはOver The Counterの略で、薬局のレジのカウンター越しに買える薬という意味です。

市販薬（一般用医薬品）は症状、年齢、体質などのさまざまな人が使用するということや、患者さん自身の判断で使用することを考え、安全性が重視されています。



また、かぜ薬のように、できるだけ多くの症状に対応するために複数の成分が含まれていることも特徴です。安全性を重視するため、薬の有効成分の含有量を少なくしてあることが多く、効き目が抑えめであるため、初期の段階には適していますが、症状が進行した段階では適していません。そのような時は早めの受診をおすすめします。

### スイッチOTC医薬品

処方薬（医療用医薬品）として長い間使用され、安全性が十分に確認された薬の中には、市販薬（一般用医薬品）として販売が可能になったものもあります。これはスイッチOTC医薬品と呼ばれています。

スイッチOTC医薬品は処方薬の中でも、薬の作用が比較的穏やかで副作用が少ないもの、病気や症状について自己判断しやすいもの、使用法などが一般の人にもわかりやすいものであることが条件とされています。

しかしながら、もとは処方薬であった効き目の強い薬ですから、使い方や効果など薬のことをよく理解した上で使うことが大切です。市販薬にはこのような薬もあることから、購入する時はできるだけ薬剤師と相談して自分に合った薬を選びましょう。

### 処方薬（医療用医薬品）と市販薬（一般用医薬品）の併用

処方薬の使用中に市販薬を使いたい場合、あるいはその反対の場合も必ず医師・薬剤師に相談しましょう。併用することで薬の効き目が弱くなったり、強くなりすぎたりなど、思わぬ副作用が現れることもありますから注意が必要です。

# 株主インフォメーション

- 今後のIRスケジュール (2015年)
  - 4月下旬 ● 第1四半期決算発表
  - 7月下旬 ● 第2四半期決算発表

ホームページのご案内 ▶▶▶ <http://www.chugai-pharm.co.jp/>

中外製薬

検索



## CSR活動

中外製薬のCSR活動はこちらから

## 株主・投資家向け情報

最新のIR情報はここから

● 病気とくすりに関する情報や中外製薬が取り組む活動をご紹介します。



## 新製品開発状況

最新の開発パイプラインはこちらでご確認いただけます。

## 株主総会 → オンデマンド動画配信

株主総会のオンデマンド動画配信は、こちらからご覧いただけます。



## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
配当金	期末配当金受領株主確定日 毎年12月31日 中間配当金受領株主確定日 毎年 6月30日
公告	電子公告により行います。 ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 (同連絡先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京

## 単元未満株式 買取・買増請求制度 のご案内

当社株式の証券市場での取引は100株単位(1単元)となっておりますため、単元未満株式(100株未満)を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主様は、是非買取・買増制度のご利用についてご検討くださいますようお願い申し上げます。なお、お手続きはお取引先の証券会社または三菱UFJ信託銀行(TEL.0120-232-711)にお申し出ください。

# 会社の概況／株式の概況 (2014年12月31日現在)

## 会社概要

会 社 設 立 1943年 (昭和18年) 3月8日  
創 業 1925年 (大正14年) 3月10日  
資 本 金 72,966,825,723円  
従 業 員 数 7,023名 (連結)  
本 店 東京都北区浮間五丁目 5 番 1 号  
本 社 事 務 所 東京都中央区日本橋室町二丁目 1 番 1 号

## 役員 (2015年3月26日現在)

### 取 締 役

代表取締役会長 永山 治  
代表取締役副会長 上野 幹夫  
代表取締役社長 小坂 達朗  
取締役専務執行役員 板谷 嘉夫  
取締役専務執行役員 田中 裕  
社 外 取 締 役 池田 康夫  
社 外 取 締 役 奥 正之  
社 外 取 締 役 フランツ・ベルンハント・フーマー  
社 外 取 締 役 ダニエル・オデイ  
社 外 取 締 役 ソフィー・コロノウスキー・ボネ

### 監 査 役

常 勤 監 査 役 渡辺 邦敏  
常 勤 監 査 役 横山 俊二  
社 外 監 査 役 原 壽  
社 外 監 査 役 石塚 達郎

## 株式状況

発行可能株式総数 ..... 799,805,050株  
発行済株式の総数 ..... 559,685,889株  
株主数 ..... 30,039名

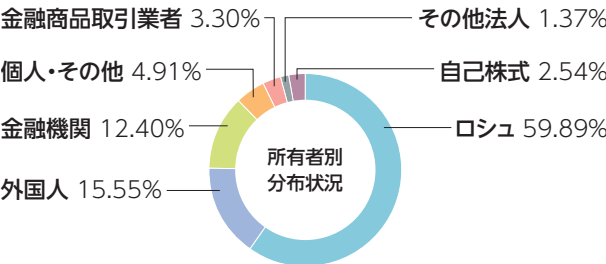
## 大株主 (上位10名)

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
ROCHE HOLDING LTD	335,223	61.46
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,176	3.33
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	15,254	2.79
野村證券株式会社	7,541	1.38
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラアカウン	6,289	1.15
東京海上日動火災保険株式会社	3,787	0.69
BNPパリバ証券株式会社	3,610	0.66
資産管理サービス信託銀行株式会社(投信受入担保口)	3,589	0.65
中外製薬社員持株会	3,338	0.61
ピーエスピー パリパセック サービスルセンブルグ ジャスデック アパディーン グローバル クライアント アセツ	3,228	0.59

※当社は自己株式14,258,437株を所有しておりますが、上記の大株主 (上位10名) の中には含めておりません。

※持株比率は、発行済株式の総数から自己株式の数を控除して計算しております。

## 株式分布状況



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



用紙は、FSC®森林認証紙を使用しています。インキはVOC(揮発性有機化合物)が1%未満のノンVOCインキを使用しています。印刷は有害物質を含む湿し水を使用しない、水なし印刷を採用しています。



すべての革新は患者さんのために



中外製薬株式会社

Roche ロシュ グループ

〒 103-8324 東京都中央区日本橋室町 2-1-1  
TEL.03(3281)6611 (代表)